

関連予算4.8億円要求

20年度 文科省 前年度比5千万円増



デイスカッショングループ(協議会)の事業費分で19年度当初予算より5千万円増えた。

テーマについて意見交換していく方向だ。

【概算要求関連記事4面】

【東京支社】 文部科学省は29日、2020年度予算の概算要求を発表し、国際リニアコライダー(ILC)の関連で計4億8千万円を盛り込んだ。7月に日仏独の政府間で設置に合意した

加速器の基盤技術開発関連費用としては3億2千万円を計上。高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県つくば市)と米国の研究所が続ける超電導加速器のコスト低減研究などを推進する。仏独とも同様のテ

KEKの運営費交付金内にはILC関連として19年度当初予算と同額の1億6千万円を盛り込んだ。日米共同研究に対応する。

ILCを巡って同省は、日本学術会議のマスタープラン策定が来年1月ごろ、次期欧州素粒子物理戦略(20〜24年)の策定が同

5月ごろとみており、国内外の研究者間の議論を踏まえながら対応する方針だ。

ILCは宇宙創成の謎に迫る素粒子物理学の国際研究所。本県の北上山地(北上高地)が建設候補地とされ、実現すれば早くも32年の稼働が想定される。